

岡山県感染症週報 2013 年 第 26 週 (6 月 24 日～6 月 30 日)

◆2013 年 第 26 週 (6/24～6/30) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 24 週 2 類感染症 結核 1 名 (80 代 男)
 第 25 週 2 類感染症 結核 3 名 (40 代 女 1 名、70 代 男 1 名・女 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O26 : 10 代 女)
 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (60 代 男)
 第 26 週 2 類感染症 結核 2 名 (20 代 女 1 名、80 代 女 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3 名 (O26 : 20 代 女 1 名、50 代 女 1 名、
 O157 : 30 代 女 1 名)
 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (50 代 男)
 5 類感染症 風しん 2 名 (幼児 女 1 名、30 代 男 1 名)

■定点把握感染症発生状況

- 手足口病は、県全体で 176 名 (定点あたり 1.56 → 3.26 人) の報告があり、前週より増加しました。真庭地域 (10.50 人)、美作地域 (6.67 人) で、新たに発生レベル 3 となりました。
 ○ヘルパンギーナは、県全体で 191 名 (定点あたり 1.57 → 3.54 人) の報告があり、前週より増加しました。倉敷市 (6.91 人) では、発生レベル 3 になりました。

【第 27 週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 3 名 (O157 : 幼児 女 1 名、50 代 男 1 名、O111 : 50 代 男 1 名) の発生がありました。(7 月 1 日～2 日)

1. 風しんは、第 26 週に 2 名の発生報告がありました。岡山県では今年の第 26 週までの報告累計が 62 名となり、第 15 週以降 12 週連続して発生報告が続いています。全国の第 25 週までの累計報告数は、昨年同時期の約 25 倍となる 11,489 名で、依然、多数の患者発生が続いています。詳しくは『風しん情報』をご覧ください。
2. 腸管出血性大腸菌感染症は、第 25 週に 1 名、第 26 週に 3 名の報告があり、今年は第 26 週までに 21 名が報告されています。血清型別では、O157 が 12 名、O26 が 4 名、O146 が 3 名及び O119、O 型別不能が各 1 名となっています。例年 7 月、8 月は 1 年のうちで最も発生が多くなりますので、感染に注意してください。今年、岡山県では、これまでに腸管出血性大腸菌感染症による死亡例はありませんが、抵抗力の弱い子供や高齢者などでは、重症化しやすいので、特に注意が必要です。手洗い等を徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、ひきつづき通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。
3. 手足口病は、176 名 (定点あたり 1.56 → 3.26 人) の報告があり、第 20 週から 7 週連続で増加しています。地域別では、真庭地域 (10.50 人)、美作地域 (6.67 人)、倉敷市 (3.82 人) の順で、定点あたり報告数が多くなっています。真庭地域、美作地域で、定点あたり報告数が 5 人を超えたため、新たに発生レベル 3 となりました。備中地域 (3.14 人) では、前週 (3.86 人) より減少しましたが、第 22 週からひきつづき、発生レベル 3 で推移しています。詳しくは、『今週の注目感染症』をご覧ください。
4. ヘルパンギーナは、191 名 (定点あたり 1.57 → 3.54 人) の報告があり、第 22 週から 5 週連続で増加しています。地域別では、倉敷市 (6.91 人)、岡山市 (5.79 人)、備中地域 (1.86 人) の順で、定点あたり報告数が多くなっています。倉敷市では定点あたり報告数が 6 人を超えたため、発生レベル 3 になりました。詳しくは、『今週の注目感染症』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★	RSウイルス感染症	↘	★
咽頭結膜熱	↗	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	↘	★
手足口病	↑	★★	伝染性紅斑	↘	
突発性発疹	↘	★★	百日咳	↘	
ヘルパンギーナ	↑	★★★	流行性耳下腺炎	↘	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↑	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↗	★★	クラミジア肺炎	→	

【記号の説明】 前週からの推移：
 ↓ : 2倍以上の減少 ↘ : 1.1~2倍未満の減少 → : 1.1未満の増減
 ↗ : 1.1~2倍未満の増加 ↑ : 2倍以上の増加

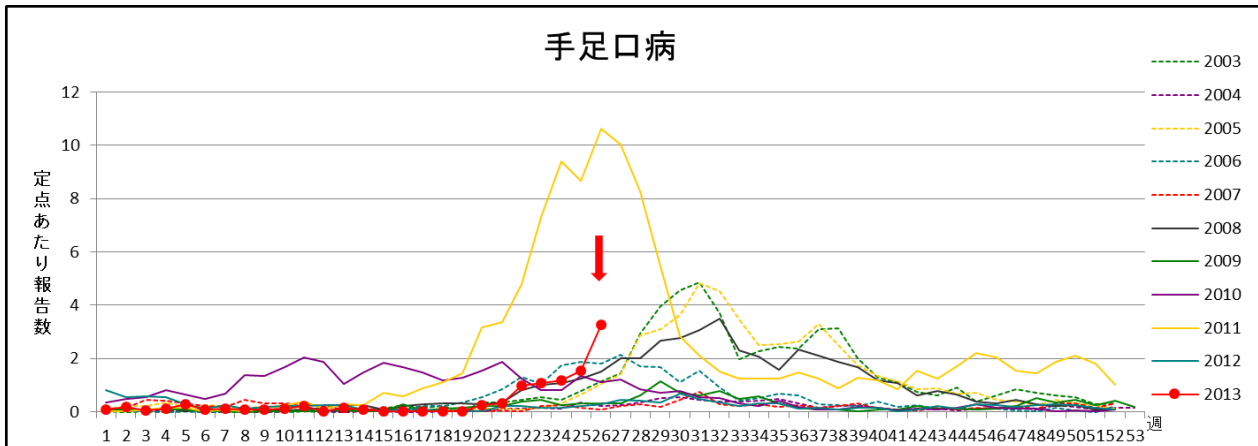
発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症

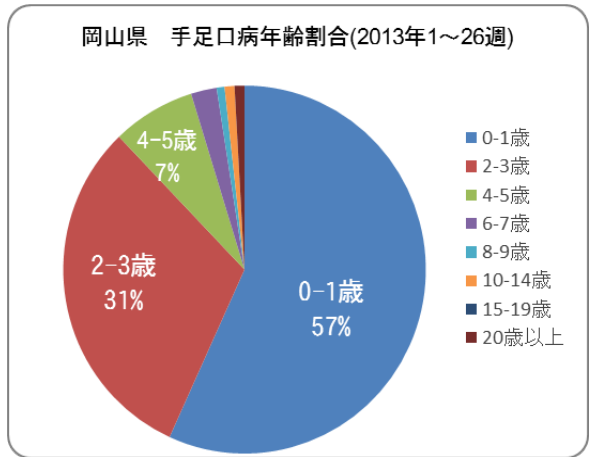
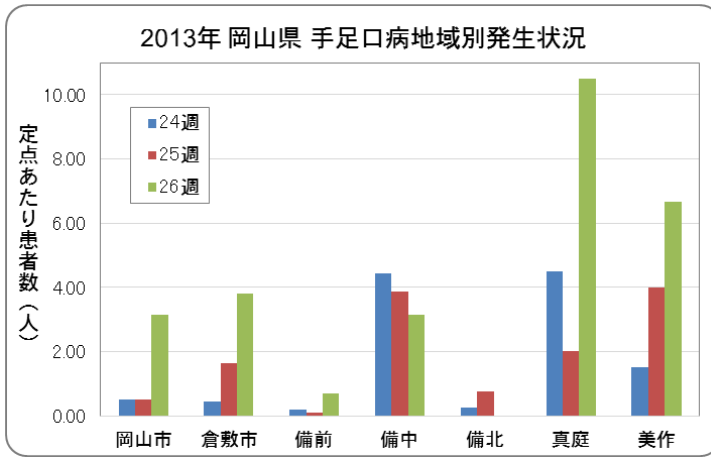
1. 手足口病

岡山県の発生状況グラフ

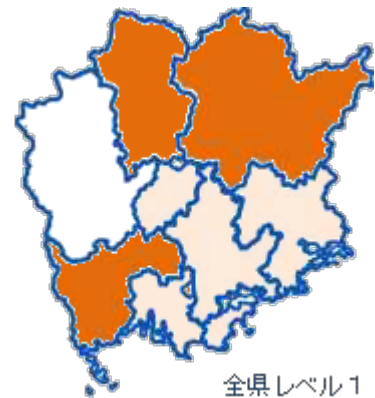


手足口病は、176名（定点あたり1.56 → 3.26人）の報告があり、第20週から7週連続で増加しています。第26週は、前週の2倍以上の発生報告がありました。地域別では、真庭地域（10.50人）、美作地域（6.67人）、倉敷市（3.82人）の順で、定点あたり報告数が多くなっています。真庭地域、美作地域で、定点あたり報告数が5人を超えたため、新たに発生レベル3となりました。備中地域（3.14人）では、前週（3.86人）より減少しましたが、第22週からひきつづき、発生レベル3で推移しています。岡山県の過去10年の同時期の発生状況と比較すると、大流行となった2011年に次いで、2番目に多い報告数となっています。年齢別では、3歳以下の乳幼児が全体の88%を占め、5歳以下を中心に感染が拡大しています。

全国の第24週の発生状況は、定点当たり1.33人で、佐賀県（7.96人）、福岡県（5.16人）、熊本県（5.14人）など、九州地方で定点あたり報告数が多くなっています。中国地方でも、鳥取県（4.05人）、島根県（2.87人）、広島県（2.70人）など、九州地方に次いで定点あたり報告数が多くなっています。例年、7月～8月頃に流行のピークを迎えますので、県内の発生状況に注意してください。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。



手足口病感染症マップ 2013年 26週



全県レベル1

レベル3		レベル1		報告なし	
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値	基準値
5	2	0	5未満	0	0

レベル3 の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3 が継続されます。

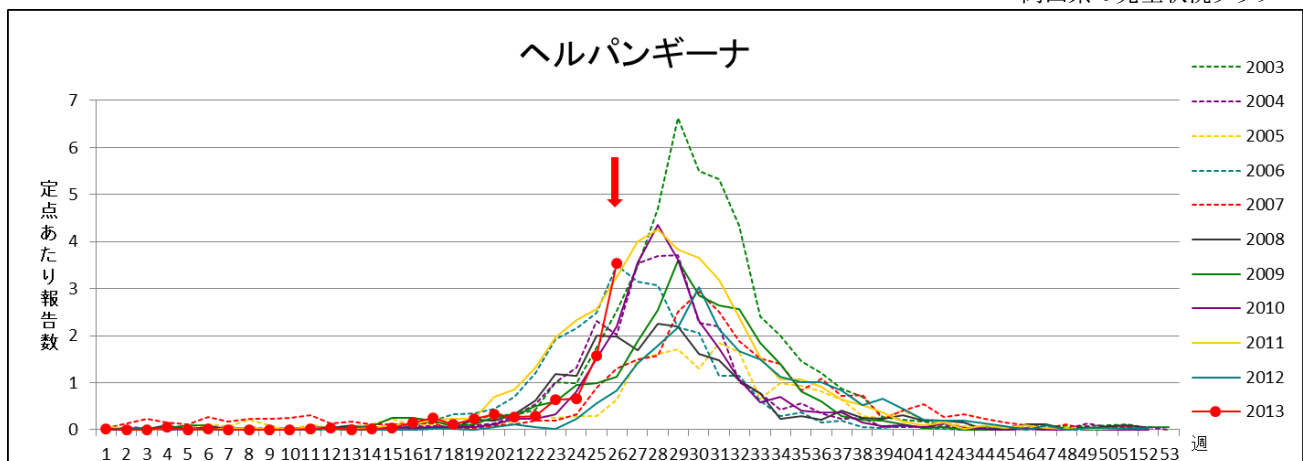
【手足口病とは】

夏に幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスにより、経口感染します。症状は、3~5日の潜伏期の後、軽度の発熱とともに、口腔粘膜、手掌、足底や足背に2~3mmの水疱性発疹が出現するのが特徴です。3~7日で水疱が消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎を起こすことがあります。特に、エンテロウイルス71型による手足口病は、中枢神経系合併症など、重症化する割合が高いと言われています。

患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行すること等が、有効な感染予防になります。

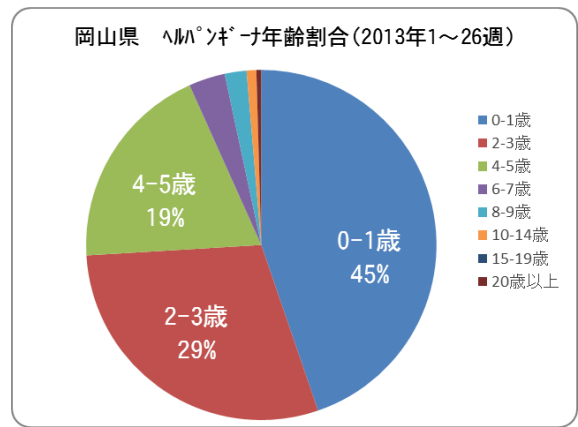
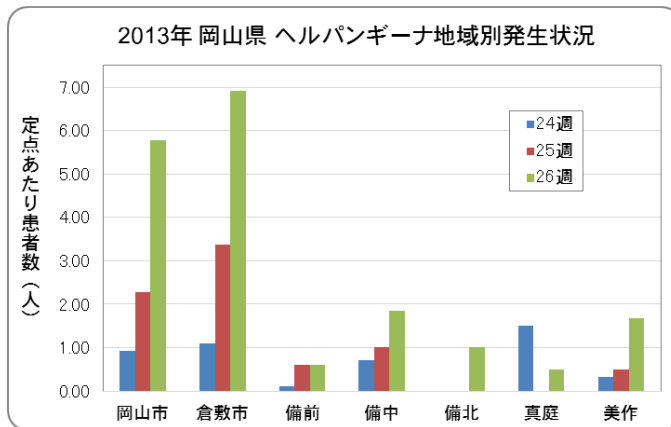
2. ヘルパンギーナ

岡山県の発生状況グラフ



ヘルパンギーナは、191名(定点あたり1.57→3.54人)の報告があり、第22週から5週連続で増加しています。第26週は、前週の2倍以上の発生報告がありました。地域別では、倉敷市(6.91人)、岡山市(5.79人)、備中地域(1.86人)の順で、定点あたり報告数が多くなっています。倉敷市では定点あたり報告数が6人を超えたため、発生レベル3になりました。年齢別では、3歳以下の乳幼児が全体の74%を占め、5歳以下を中心に感染が拡大しています。

例年、7月頃に流行のピークを迎えますので、県内の発生状況に注意してください。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。



【ヘルパンギーナとは】

夏に発生する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表疾患です。A群コクサッキーウイルスなどが原因となります。患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスにより、経口感染します。症状は、突然の発熱につづいて、のどが痛くなり、軟口蓋（口腔内の上側奥の柔らかい部分）に直径1~5mmほどの赤い小水疱が多数出現するのが特徴です。通常、2~4日で軽快し、予後は良好な疾患ですが、発熱時の熱性けいれんや、髄膜炎を伴うことがあります。症状が治まっても、2~4週間の長期間にわたりウイルスが排出されることもあります。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行すること等が、有効な感染予防になります。

○手足口病・ヘルパンギーナなど、夏に流行が見られる感染症が増加しています。

どちらの感染症も、ウイルスに対する特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。また、口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、小さな子供では食べ物や水分が取りにくくなり、脱水症につながる可能性がありますので、注意が必要です。

○保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがい・手洗いを励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を着けるなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。

○体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

風しん情報

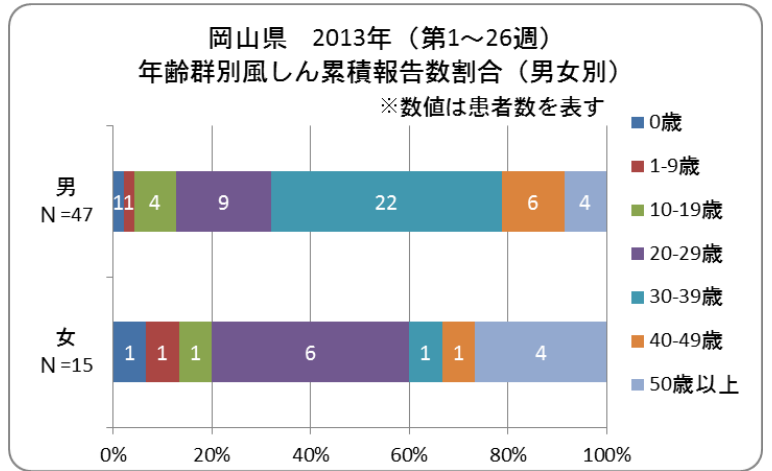
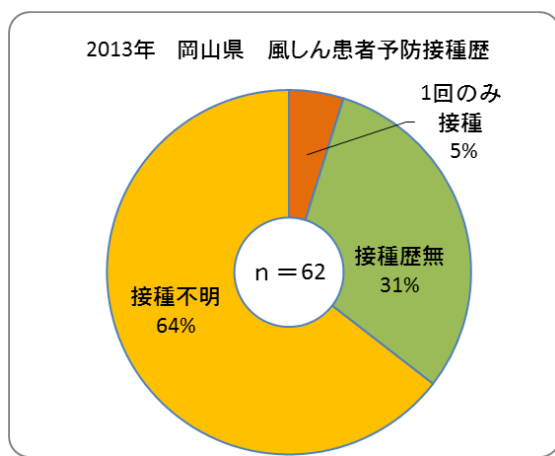
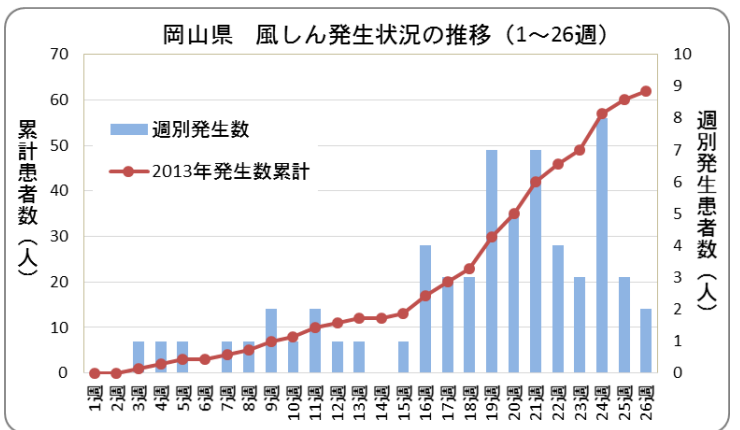
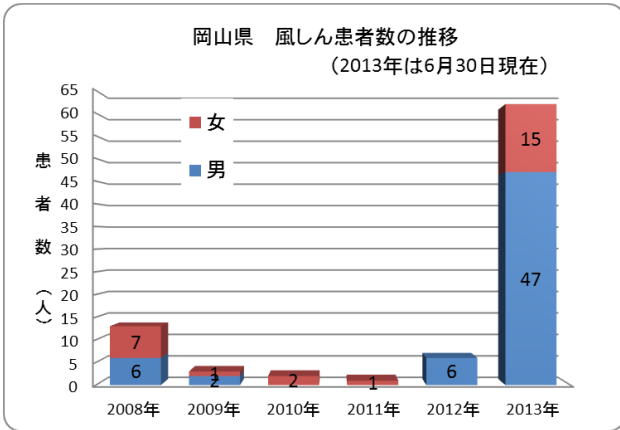
風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

今年は、関東地方・近畿地方を中心に多数の患者が発生しています。風しんはせき、くしゃみ等の飛沫により感染します。全身性の発しん、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性がありますので早めに医療機関を受診してください。

[\(国立感染症研究所 風しんQ&A\)](#)

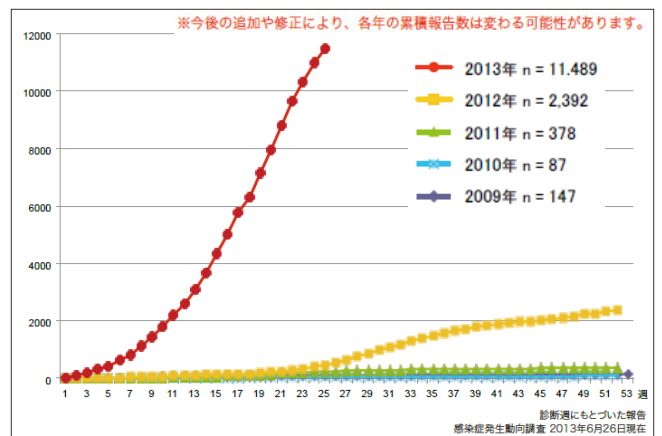
【岡山県の風しん発生状況】

岡山県では、第26週に2名の発生報告がありました。2013年第26週までの累積報告数は62名となり、第15週以降12週連続して発生報告が続いています。患者は、全国集計同様20～30代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴無しが19名、接種不明が40名、1回のみ接種が3名でした。



【全国の風しん発生状況】

今年、全国の第25週までの累計報告数は11,489名であり、関東地方・近畿地方を中心に、多数の患者が発生しています。患者の約8割は男性で、そのうち20～40代が82%を占めています。また女性は、20～30代が59%を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかった、または、集団接種から個別接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。また、妊婦が風しんにかかり、胎児に障がいが発生する[先天性風しん症候群 \(CRS\)](#)は、2012年は5名でしたが、2013年は6月12日までに、すでに6名の発生がありました。



全国風しん累積報告数の推移 2009～2013年(第1～25週)
国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページより

【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの有効な予防方法は、予防接種を受けることです。

風しんの定期予防接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）は、積極的に予防接種を受けましょう。また、定期予防接種の対象者以外の方でも、風しんの抗体価が十分であると確認ができた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。

風しんの予防接種を受ける場合は、麻しんの対策も考慮し、麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）を接種することが推奨されています。任意の予防接種者数が、例年に比べて急激に増加したため、今夏以降にMRワクチンが一時的に不足することが懸念されています。MRワクチン安定供給の目途がつくまでの間、任意の予防接種について、

①妊婦の周囲の方

②妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い方

①②の方で、「抗体価が十分であると確認できた方」以外の方が、優先して接種を実施できるよう、ご協力をお願いいたします。

[おかやま医療情報ネット](#)から、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。ワクチンの在庫及び、予防接種のご予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2013年 26週 (2013/06/24～2013/06/30)

2013年7月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	6	0.07	-	-	6	0.38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	10	0.19	4	0.29	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	18	1.29	4	0.36	-	-	1	0.14	-	-	8	4.00	8	1.33
感染性胃腸炎	245	4.54	76	5.43	49	4.45	50	5.00	28	4.00	14	3.50	6	3.00	22	3.67
水痘	50	0.93	11	0.79	4	0.36	13	1.30	4	0.57	2	0.50	1	0.50	15	2.50
手足口病	176	3.26	44	3.14	42	3.82	7	0.70	22	3.14	-	-	21	10.50	40	6.67
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	29	0.54	15	1.07	3	0.27	5	0.50	1	0.14	-	-	1	0.50	4	0.67
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	191	3.54	81	5.79	76	6.91	6	0.60	13	1.86	4	1.00	1	0.50	10	1.67
流行性耳下腺炎	13	0.24	7	0.50	1	0.09	5	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	1.20	3	3.00	-	-	-	-	-	-	3	3.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 26週 (2013/06/24～2013/06/30)

2013年7月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	6	0.07	-	-	6	0.38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	10	0.19	4	0.29	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	18	1.29	4	0.36	-	-	1	0.14	-	-	8	4.00	8	1.33
感染性胃腸炎	245	4.54	76	5.43	49	4.45	50	5.00	28	4.00	14	3.50	6	3.00	22	3.67
水痘	50	0.93	11	0.79	4	0.36	13	1.30	4	0.57	2	0.50	1	0.50	15	2.50
手足口病	176	3.26	44	3.14	42	3.82	7	0.70	22	3.14	-	-	21	10.50	40	6.67
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	191	3.54	81	5.79	76	6.91	6	0.60	13	1.86	4	1.00	1	0.50	10	1.67
流行性耳下腺炎	13	0.24	7	0.50	1	0.09	5	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3を示しています。
 今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第26週 2013/06/24～2013/06/30)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	2	-	1	-	-	-

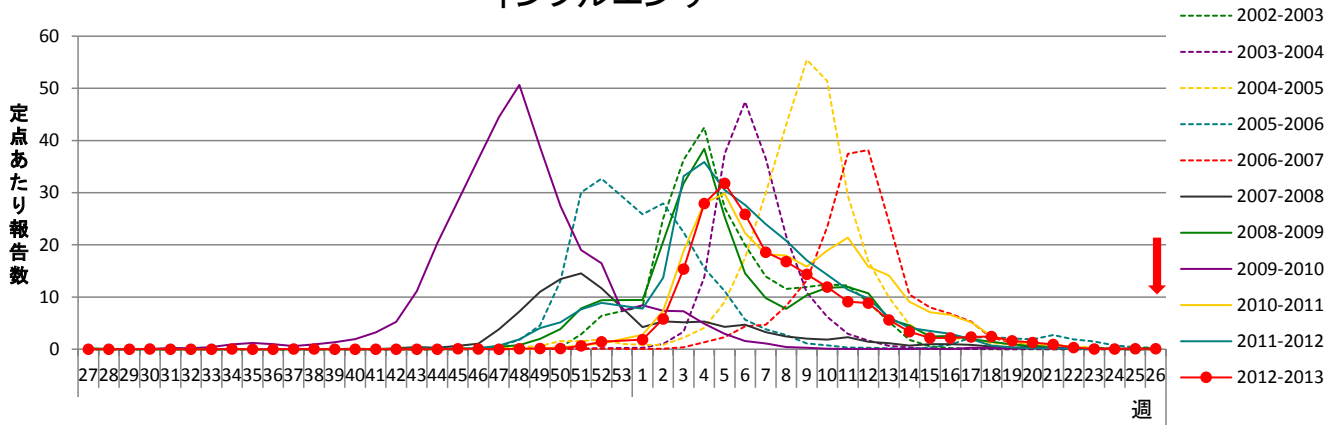
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	10	-	1	4	2	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	-	-	-	2	4	7	4	6	3	5	1	3	-	4
感染性胃腸炎	245	5	25	29	22	18	23	11	9	13	6	13	29	8	34
水痘	50	-	1	6	16	6	10	4	2	2	1	1	1	-	-
手足口病	176	5	14	82	35	18	10	2	4	2	1	1	1	-	1
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	29	1	15	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	191	5	23	65	29	20	28	10	4	3	2	2	-	-	-
流行性耳下腺炎	13	-	-	-	1	1	3	4	2	1	1	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-

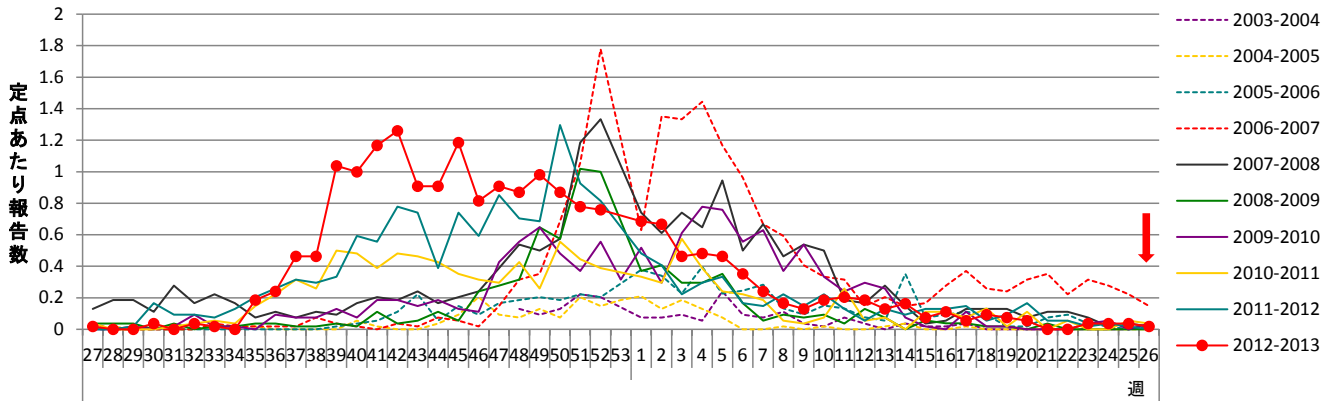
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

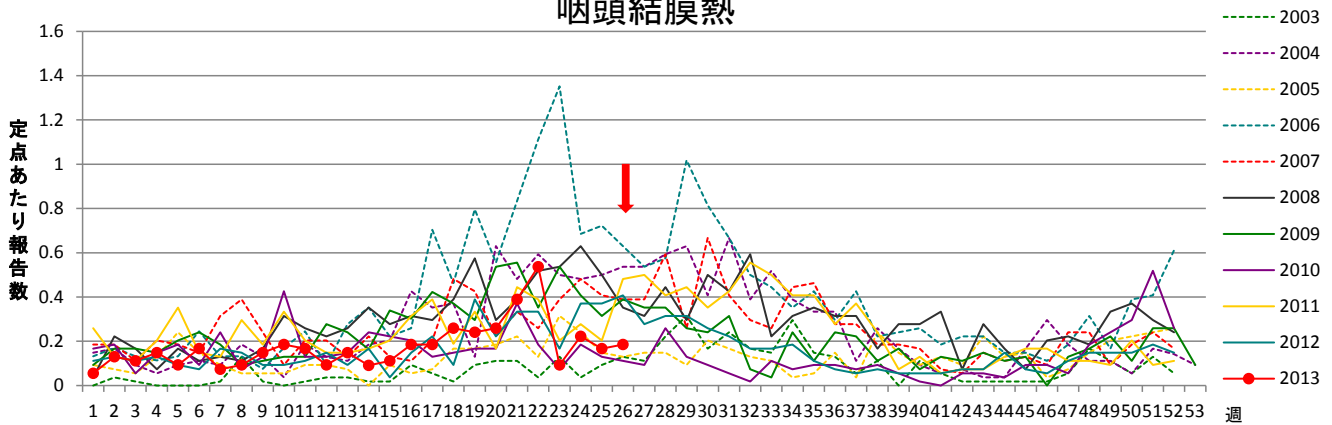
インフルエンザ



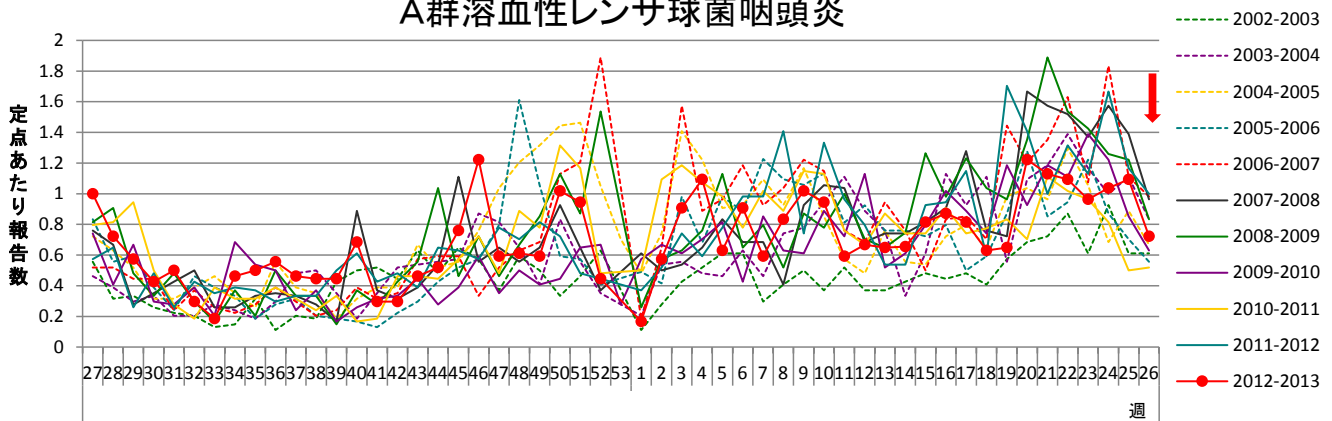
RSウイルス感染症



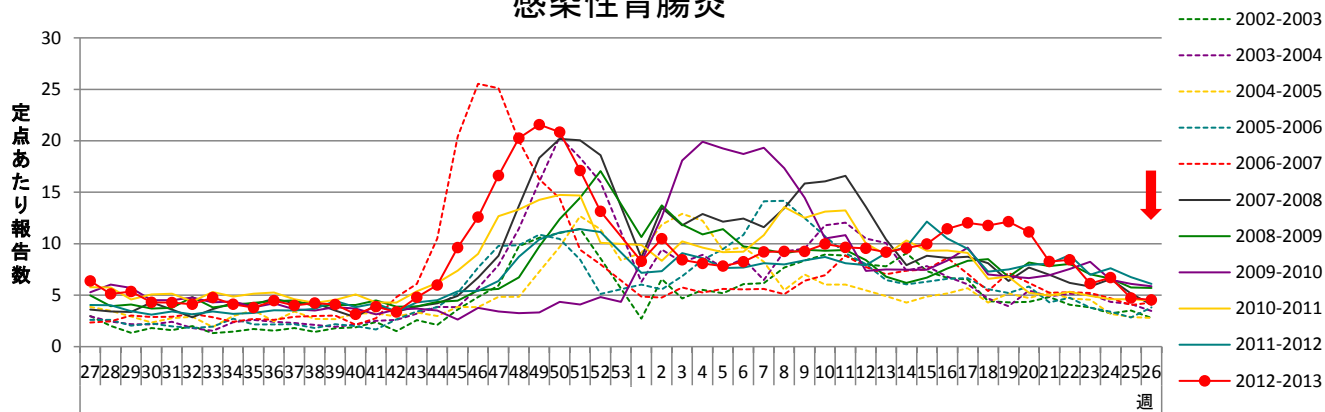
咽頭結膜熱



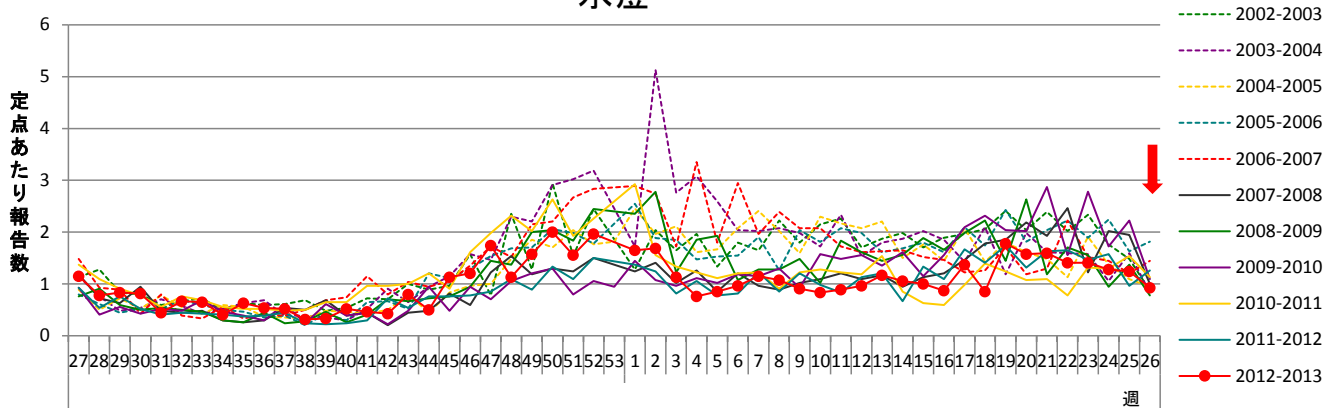
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



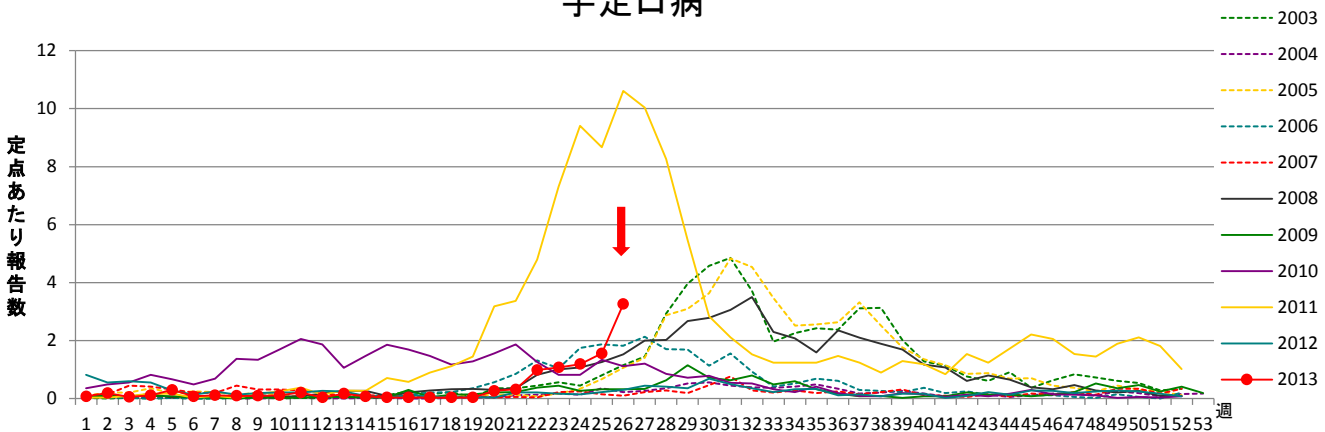
感染性胃腸炎



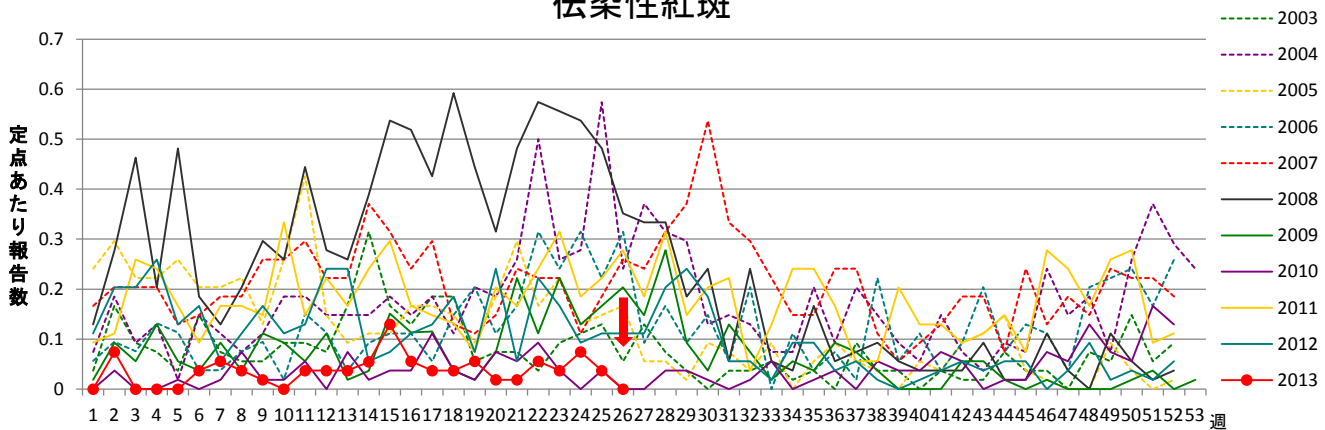
水痘



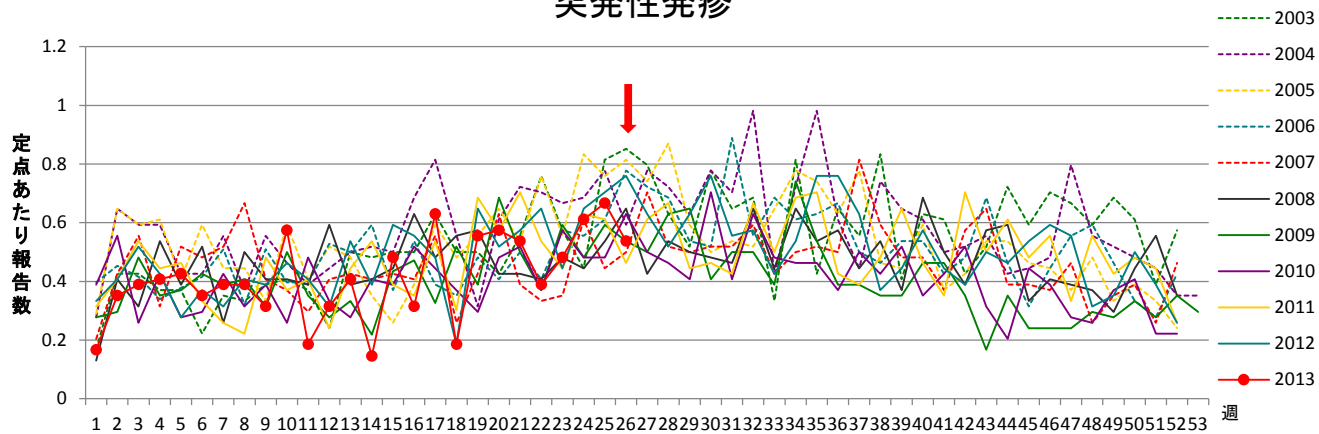
手足口病



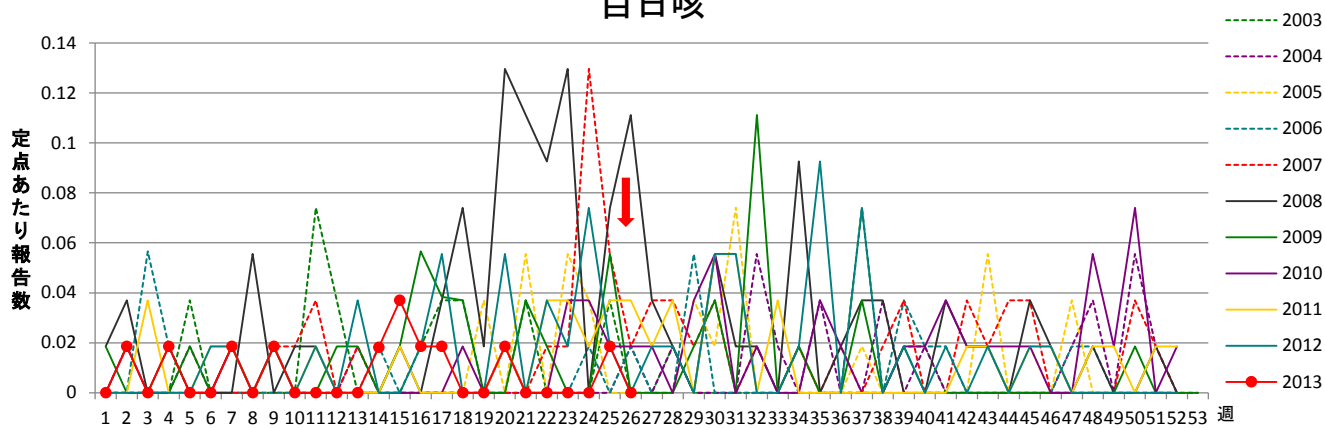
伝染性紅斑



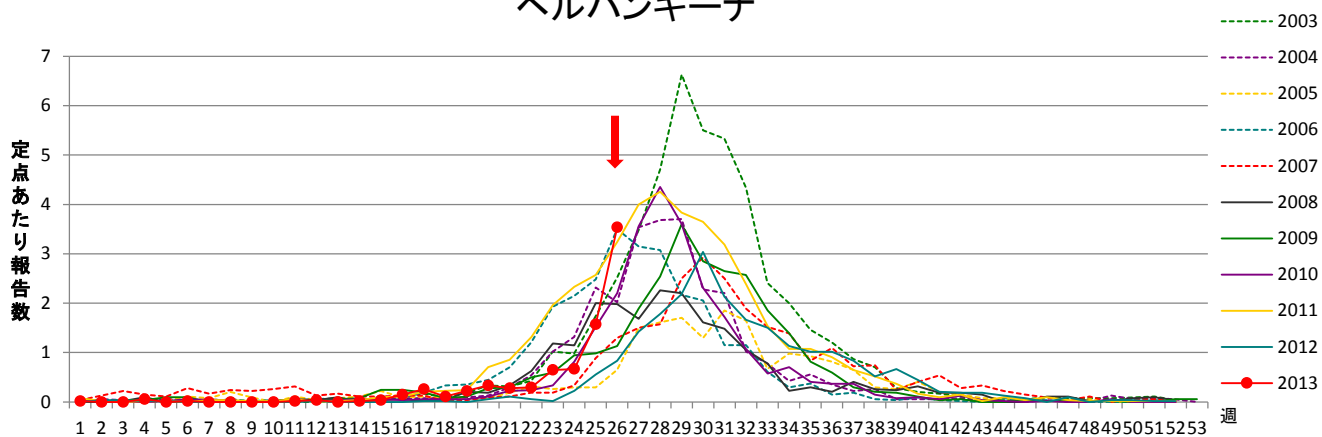
突発性発疹



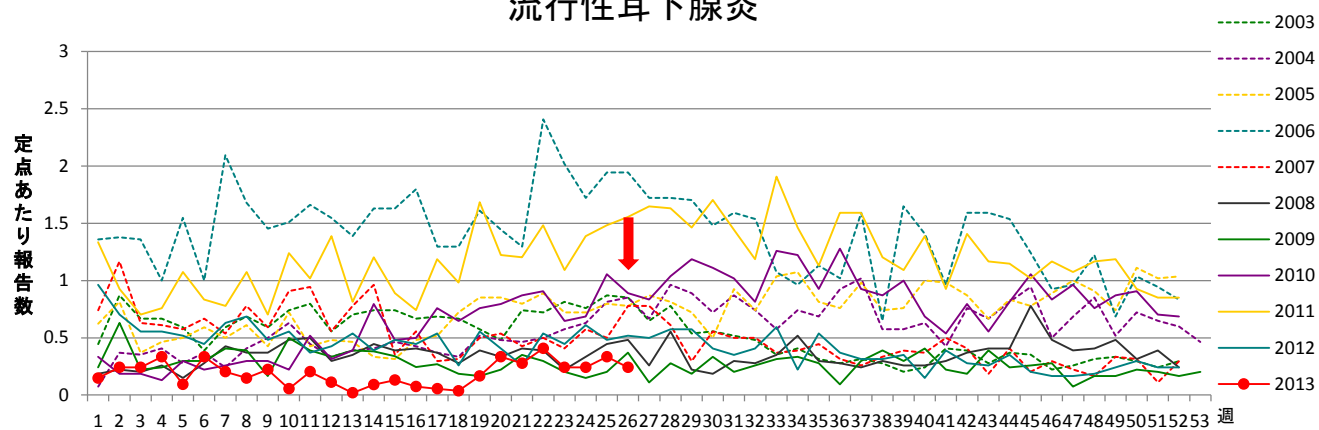
百日咳



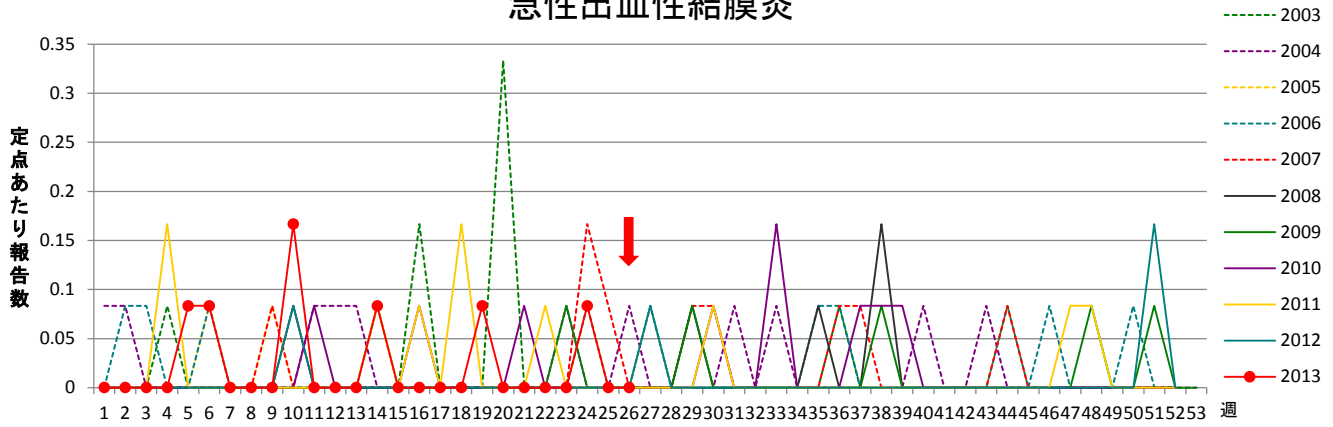
ヘルパンギーナ



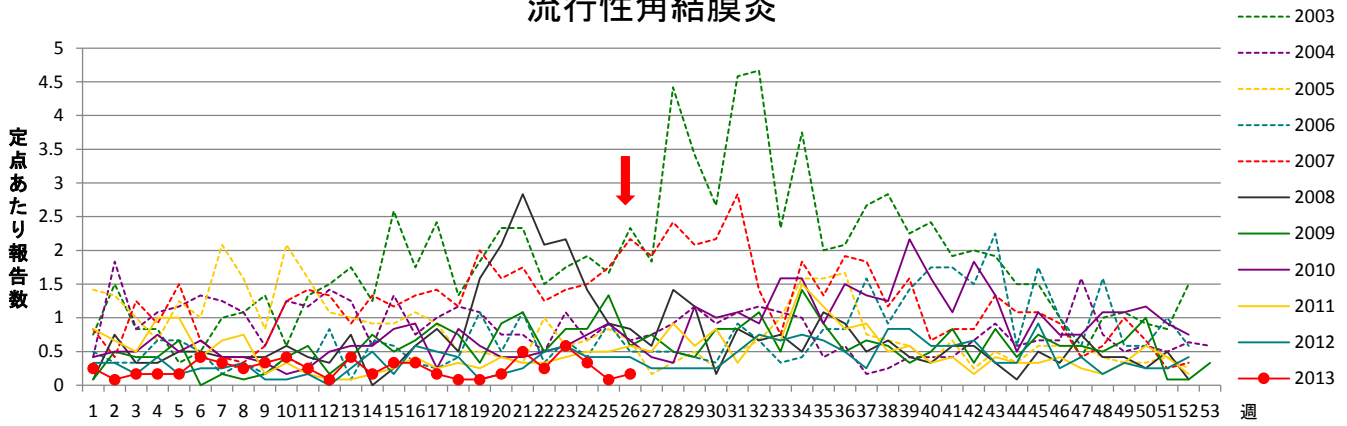
流行性耳下腺炎



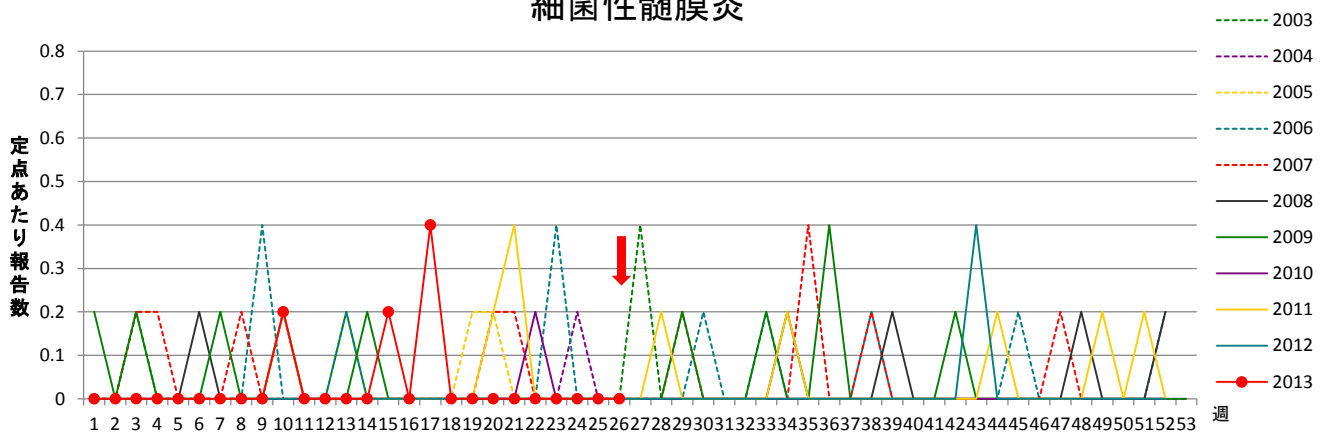
急性出血性結膜炎



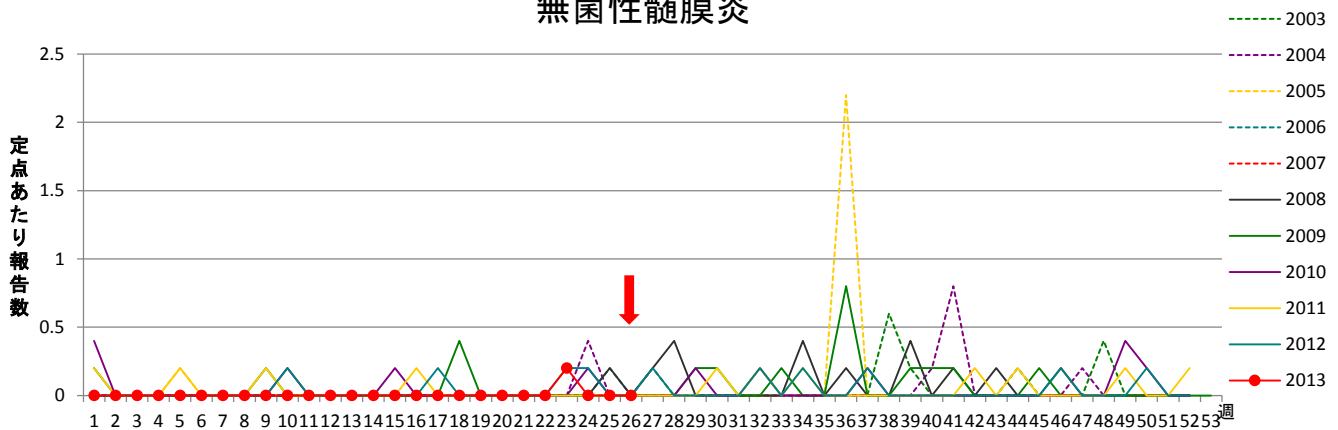
流行性角結膜炎



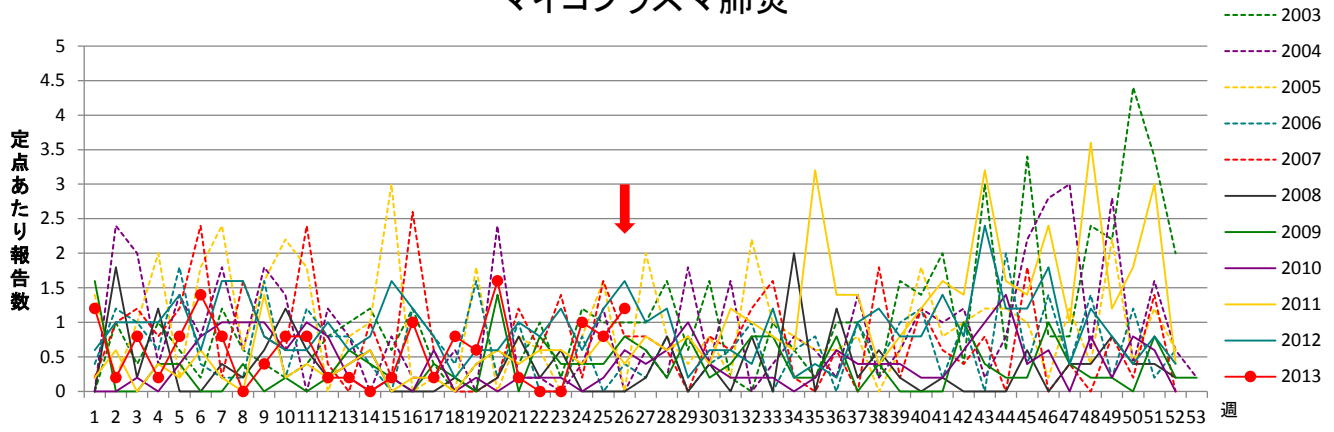
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

